

指定校番号	29041	学級活動	○	生徒会活動		学校行事		中学校用
-------	-------	------	---	-------	--	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長	石角 剛	生徒指導主事	吉岡知美
-----	------------	----	------	--------	------

取組事例名 『帰りの会における目標の振り返り』

取組のねらい 『あたたかみのある学級集団づくり』

1. 帰りの会の目的

- (1) 生徒に1日の生活を振り返らせることで、よりよい生活態度と学習態度への改善を促す。
- (2) 生徒に、学級内の課題や問題点に目を向けさせ、それらを解決していこうとする姿勢を養うとともに、それらを解決していく力を伸ばす。
- (3) 学級の生徒同士がお互いの考え、気づき、思いを出し合うなど関わり合い、認め合える場を設定し、生徒指導の三機能を高める活動の場とする。

2. 帰りの会参観の目的

- (1) 他学年や他学級の帰りの会の振り返り活動、話し合い活動、評価活動等を参観することで、担当学年や担当学級の課題を見直し、今後の帰りの会の充実を図る。
- (2) 授業観察用シートを全職員が記入し、それらを元に生徒の実態を把握すると同時に課題点を明らかにしていく。それらを生徒指導面における取組内容づくりに繋げていく。

身に付させたい資質・能力

- ・協働性・課題発見力・表現力（平成29年度 本校研究主題における育成すべき資質・能力設定内容より）

取組の具体的内容 『認め合いの場の設定』

- ・年度初めに、帰りの会においては、全学級で日々の目標に対する振り返りを実施することを確認する。
- ・生徒の主體的な活動になるように生徒による司会で進行する。
- ・学級内のその日の出来事で活躍した生徒や他者の役に立つことを行った生徒や全体に貢献した生徒を探し、理由を添えて全体で紹介する場を設ける。
- ・授業評価やそうじの評価の発表を行い、課題点を認識する場を設け、改善に向けての動きや声かけについて考えさせ、発表させる。

取組の課題・創意工夫 『具体的に評価し合う』

- ・生徒から出された発表内容に対して、教員が良いと評価された生徒の行動や言い、態度等について適切な価値付けをし、学級全体で共有していかなければならない。どのような点が価値ある点なのかを明確にしていきながら、個々の生徒の承認から他者の行動の変容へとつながる活動にしていくことが大切である。
- ・短時間の中に組み込まれる活動メニューが、それぞれ生徒指導の三機能のどの部分を高めていく活動になるのかを意識した内容にしていく。各班が目標を振り返って、成果と課題を出し合って確認していく活動は協働的な学びとなり共感的人間関係を高めていく。さらに、課題に対する改善策を打ち出していく活動は、自己決定の力の育成につながる。生徒間の良いところ探しは、自己存在感を与える活動となる。20分間といった短時間の間に三機能すべてに係る活動を毎日繰り返すことで、学級の集団としての成長を促す活動となる。
- ・本校では、「帰りの会を参観するデー」と称し、2学期後半から3学期前半にかけて、第1・2学年と特別支援学級で帰りの会を公開し教員同士が帰りの会の改善について学び合う場とした。参観教員は参観用評価シートを用いて、生徒指導の三機能を生かした活動内容に対する評価をし、良いところや課題点を記入し、それらを後日まとめたものを全職員に配布し、各学級の帰りの会の活動内容改善を促していった。

【参観シートの評価項目】

- ①聞き手側の生徒は、話し手の方を向いて、聴くことができている。 【共感的人間関係】
- ②発表者（発言者）は、聞き手側の生徒が聴く準備ができてから発言している。 【自己存在感】

③発表者（発言者）は、教室全体に十分聞こえる大きさと話している。

【自己決定力】

④目標の振り返りに関する話し合い活動において、一人一人が自分の考えを出し合いながら、それに対する見直しが適切になされている。

【自己決定・共感的人間関係】

⑤生徒の発表（発言）内容に対して、教員の評価や価値付けが適切にされている。

【自己決定・共感的人間関係】

評価基準 A十分できている Bできている Cあまりできていない

取組の成果（効果）『お互いの良さの発見』

- ・歴史、ヒーローについては、継続指導成果として、決められた項目について文章で速く書ける生徒が多く見られた。
- ・発表される内容に対して、先生が価値付けしたり、誉めたりするコメントをされていた。
- ・歴史カードがお互いの振り返りにもなり、自己肯定感も高まる活動になっている。
- ・デイリーノートとカードを全員が集中して書いていた。継続することで作文力がつくと思われる。
- ・生徒が生き生き、前向きに納得して振り返りができているのが素晴らしかった。
- ・司会の生徒への指導が入ることで、教師主導にならず、生徒同士の指示対応の関わりがスムーズになっている。
- ・毎日の「今日のヒーロー」は発表されると全員が拍手をし、あたたかい人間関係の構築になっている。
- ・クラスの歴史が定着しており、振り返る時間や視点が継続できているのは生徒同士や担任からの声かけにつながっていくのでとても良い。
- ・今日のヒーローで名前を言ってもらった生徒は嬉しく感じ、自己存在感を高める活動になっている。
- ・司会がテキパキとできている。
- ・班の反省の時に問題点の対策や次の目標が述べられている。
- ・頭を寄せ合っている班が多い。（右の写真）

【参観シートの評価結果についてのまとめ】

項目①	A-13%	B-80%	C-7%
項目②	A-20%	B-73%	C-7%
項目③	A-40%	B-40%	C-20%
項目④	A-46.5%	B-46.5%	C-7%
項目⑤	A-53%	B-20%	C-27%



今後の展開『自己表現力の伸長』

- ・生徒同士の参観による交流を行う。（各学級の班長が訪問する等）
- ・評価項目③と⑤の数値が低くなっているため、生徒に「聴く力」と「話す力」をつけるための取組の見直しが必要である。全教職員で足並みを揃えて、「聴くこと」における生徒の具体的な動きや評価すべき内容を明示し、それらを振り返り、評価する学級活動の確保をしていく。
「話すこと」への意識付けは全教科で取り組んでいくことを職員間で確認し、生徒の発言は学級全体に聞こえるように話させることを徹底させる。何度も繰り返し、聞こえるまでやり直しさせるなどの粘り強い指導を継続させる。
- ・教員が生徒の発言に対し、それがどのような重要性や意義を持っているのかを伝え、価値の共有を図っていくことに取り組む。

他校へのアドバイス『生徒実態にあった活動を仕組む』

- ・帰りの会は時間が短く限られているので、学級の実態によってどのような活動を重点的に実施するのかを見極めながらメニューを組んでいく。（例：話す活動を発展させたい場合はスピーチタイムを設ける等）